

第5回検討会を踏まえた今後の対応(案)について

平成30年3月

第5回検討会を踏まえた今後の対応（案）について

ご意見	今後の対応（案）	備考
■平成28年度モニタリング調査結果について		
①ワンドの水際は、攪乱が生じるため遷移があまり進まない方が順調といえる。1～2年で評価するのではなく、5～10年スパンで調査・評価するとよい。	・基本的に、整備後3カ年は詳細なモニタリングを実施し、その後は河川水辺の国勢調査等で、状況を確認する。	資料2-1 ワンド等湿地の再生
②ワンドの評価では、出水の発生時期・規模を資料に載せるとよい。本川の水位上昇がワンド環境に与える効果を考察できる	・出水時期と調査結果から、出水による効果を考察した。	資料2-1 ワンド等湿地の再生
■焼山地区ワンドの現状と今後の対応について		
①昭和初期の水位・河床高、当時の焼山地区の高さの関係を整理することで、改良効果の裏付けとならないか。水の循環速度と酸化速度について今後検討していくとよい。	・昭和初期は、現在よりもワンド前面の本川水位が約1m高く、ワンド水位を押し上げていたと考えられる。ただし、湧水量との関係は不明確。 ・水の循環速度等については、本年度の導水対策後のモニタリングの評価に合わせて整理したい。	資料3 焼山地区について
②本川からワンドに導水すると、本川とワンドの水温差が小さくなり、魚類がワンドの存在に気づきにくくなるのではないかと。	・現時点では、本川からの導水までは想定していないが、導水を検討する場合には、水温について検討する。	
③焼山ワンドには、年中魚類が生息しており、鉄分が多くても影響はないと思われる。	・モニタリングを継続し、生息状況等を評価する。	資料2-1 ワンド等湿地の再生
■早出川の整備結果報告		
①設置前の状況をしっかり把握し、評価しておくるとよい。	・設置前・直後の平成28年度に、測量、流速、生物等の調査を実施した。	資料2-3 早出川
②拡縮流路の効果が現れてきているように思う。早出川では見られなくなってきたカジカが確認されたことが喜ばしい。	・本年度のモニタリングでも、引き続きカジカが確認できている。	資料2-3 早出川
■阿賀野川自然再生計画書（案）の更新について		
①このような調査・検討結果を、川の上流から下流までの行政間で互いに情報共有し、河川をより良くしていくとよい。	・平成28年度には、早出川において、応用生態工学会の現地観察会を開催した。今後も、資料はHPで公開するとともに、研究発表会等でも発表・情報発信を進めていく。	
②水ヶ曾根地区の水路についても、拡縮を設けないと交互砂州が形成され陸地化していく可能性がある。	・数値計算の結果、水路を蛇行形状とすることで、出水時及び平常時の流水営力を活かし、水路が維持されると予想している。	資料4 水ヶ曾根地区砂礫河原再生について